



建物は赤レンガの構造で、2階建てですが、通りに面している一部が3階建てに見えるのが特徴。当時はこの部分に送風機が設置され、坑内へと通気用の風が送られていました。建物の設計はドイツ人技師で、赤レンガによる装飾やおつとつ、半円形の窓など、ヨーロッパ調の色彩が濃い造りとなっています。三菱鉱業所が製作した高品質の赤レンガは、大変丈夫にできていて、柱にはこのレンガのみが使用されています。建設から百年以上が経過していますが、昭和45年に所有者の九州日立マクセル株式会社から補強工事を行ったため、筑豊の石炭産業関連施設の中では最も保存状態の良い建物の一つだと言われています。



西欧を思わせる雪化粧の記念館 以前はツタに覆われていました



ツタをせん定した現在の記念館、重厚な赤レンガで風格を増しています。



**旧機械工作室** 赤レンガ記念館の並びにある横長の建物です。  
**旧圧気室** 壁には無数の電線の穴が空いています。  
**旧緑込浴場(坑内風呂)** 当時は中で職員用と坑内員用に仕切られていたそうです。

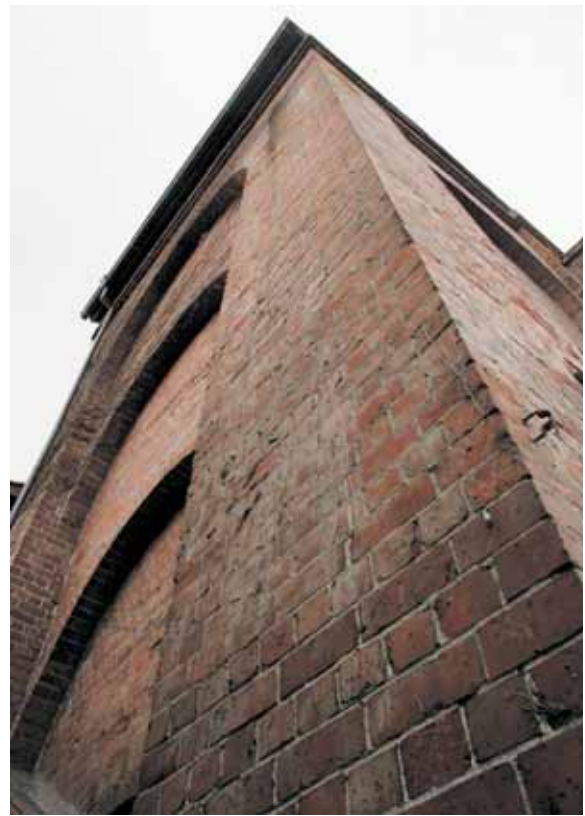
**赤レンガ群**  
 三菱による方城炭鉱の開削が始まったのは明治35年(1902)のことです。明治37年には金田への引込線が完成、大正元年に発電所が完成し、着実に発展します。大正3年12月15日には犠牲者671人と、この日本炭鉱史上最大の爆発事故、方城大非常(おほひ)が起きました。昭和37年の閉山に至るまで、炭都・筑豊の一角として栄えました。閉山後、煙突や二つの堅坑構は解体されましたが、現在まで残る旧三菱方城炭鉱の「坑務(こうむ)存室」「圧気室」「坑内風呂」「機械工作室」の赤レンガ建物群は、往時の炭鉱をしのばせる貴重な資料となっています。

前年度に解体された旧本事務所の建物

**国登録有形文化財**

**九州日立マクセル赤煉瓦記念館**

【旧三菱方城炭礦坑務工作室】  
 九州日立マクセル赤煉瓦記念館(旧三菱方城炭礦坑務工作室)は、三菱合資会社が炭鉱産業で筑豊地方に進出した際、明治37年(1904)ここに建設されたヨーロッパ風の建築物です。平成9年に国の登録有形文化財に登録されました。



朝日が照らす三菱方城炭鉱で。堅坑構の右側に見えるのが赤煉瓦記念館。  
 明治37年建設の記念館。欧米モデルのモダンさが当時評判になりました。平成9年に国の登録有形文化財に指定されました。



当時の三菱方城炭鉱の敷地内 入口にある登録文化財のプレート

**高さ**

かつて坑内に風を送る「送風機室」だったため、一部3階建てに見える背の高い外観となっています。この部分に巨大な送風機が設置されていたと伝えられています。

**国が近代化産業遺産に認定**

経済産業省が、日本の近代化をけん引した歴史的な工場跡や鉱山などについてテーマごとまとめた「産業遺産群」の認定式が、11月30日に横浜市の赤レンガ倉庫で行われました。全国約450か所の近代化産業遺産を含む33の遺産群で構成。町内の「九州日立マクセル赤煉瓦記念館」も認定されました。各遺産群は、産業発展の歴史をたどるストーリーで結び、観光の周遊コースとして活用。また、歴史的役割を再検証することや、地域経済活性化のアイデアづくりに役立つ役割も果たします。赤レンガ記念館が含まれる「筑豊炭田関連遺産群」は、「産炭地域の特性に応じた近代技術の導入など九州・山形の石炭産業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群」の中の8分類の一つに位置づけられています。この遺産群の中には、炭坑節で有名な2本煙突(田川市)や数十万人の来場者でにぎわう炭鉱主・伊藤伝右衛門の旧邸宅(飯塚市)なども含まれていて、筑豊炭田の近代化遺産群を結ぶ観光ルート開発の弾みとして期待が寄せられています。なお、郡内からは「筑豊炭田からの石炭輸送・貿易関連遺産」として、赤村の内田三連橋梁も認定されています。



石炭産業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群 / 筑豊炭田関連遺産	
田川市	旧三井田川鉱業所伊田堅坑構
	旧三井田川鉱業所伊田堅坑第一煙突・二煙突
	田川市石炭・歴史博物館 炭鉱住宅(復元)
直方市	田川市石炭・歴史博物館の所蔵物(炭坑資料・炭鉱機械類)
	直方市 旧筑豊石炭鉱業組合直方会館所(直方市石炭記念館本館)
	旧奥野医院(直方市美術館)
	旧十七銀行直方支店(直方市美術館別館「アールスペース谷尾」)
飯塚市	旧堀三太郎邸跡(直方蔵時館)
	旧伊藤伝右衛門邸
福智町	巻き上げ台座
	嘉穂劇場
築上町	九州日立マクセル赤煉瓦記念館(旧三菱方城炭礦坑務工作室)
	旧蔵内家住宅